

令和7年度 とうきょうすくわくプログラム活動報告書

杉の子育英幼稚園

1, 活動のテーマ

〈テーマ〉 音

〈テーマの設定理由〉

日々の生活は、いつも「音」で溢れている。パパやママが優しく呼びかけてくれる声、ブロックが合わさる時の音、ダンスを踊る時の足音、カバンのチャックを閉める音、風の音、雨の音・・・日常の中では、それらを意識したり、周りの人と共有することは限られている。しかし、音によって気持ちが変化したり、気持ちを共有することが多くあるのも事実である。今回は、「音」とは何かを考えつつ、新たな視点で「音」にかかわり、発見や気づきを見出せるような探究活動へと展開する。

2, 活動スケジュール

令和7年6月から令和8年3月まで、月1～2回の活動

実施合計回数 31回

3, 探究活動の実践

活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ビーズ、綿、ビー玉、プラスチックなどの音作りの材料
タブレット、プロジェクター、スクリーン、音楽デッキ、太鼓、トライアングル、タンバリン、鈴、マラカスなどの楽器、タッパー、スコップ、本、バケツペットボトル、空き箱類、画用紙、折り紙、ペン、絵の具、シャボン液、サイエンスショー

活動の内容と子どもの姿・声・子ども同士や教諭との関わり

- ・保育室内の様々な場所、物(机・椅子・靴・床など)を叩いたり、こすったりして音の違いに気づいた。「次は園庭の〇〇を叩いてみよう」など、場所によって違う音があることに気づき「探しに行こう」という発言があった。
- ・水の音に興味を持ったグループは、バケツやペットボトルなどを使って、音（「ポタポタ」「バシャバシャ」「チャプン」など）の違いに気づき楽しんだ。

- ・楽器作りでは、自由に材料を選び楽しみながら思い思いの方法で鳴らし、オリジナル楽器を作った。
- ・物だけでなく、自分からも音が出ることに気づいた。(声、拍手、お腹、くしゃみ、いびきなど)
- ・「音は見えるのかなあ？」という事に興味を持ち、絵の具とシャボン液を使って泡の音を聞き、形にした。
- ・園の中で録画した音を聞いて、粘土や紙で表現した。
- ・一人一人好きな音と嫌いな音がある事に気づき、それらの音を折り紙や画用紙、ペンなどで表現した。同じ音でも、人によって好きな人も嫌いな人もいることを発見した。
- ・音探しから音あてゲームに発展し、身近な音を聞いてどう感じるか、どう動きたくなるかのリトミックをし、それぞれの感じ方の違いに気づき楽しんだ。
- ・スクリーンで雨の動画を無音で見て音を想像し、廃材やビーズなどを使って、動画に当てはまる雨の音を作った。その後に音を出して、作った音と比べた。雨の降り方によって、音の大きさが違うことに気づき、音には大きさや力がある事を発見した。
- ・鳴っていないなくても、頭の中で歌や音が流れることがある事に気づいた。
- ・本物の楽器を使って演奏会をすることで、ルール通りに楽器を鳴らすと、素敵な曲になることに気づいた。
- ・「オムライス」をテーマに、音では表せないものを、友だちとイメージを共有し合いながら音のレシピを作って、音作りを楽しんだ。
- ・イルカの鳴き声を園内で探して、録音した。スクリーンに映した海の中のイルカの鳴き声と合わせて流してみた。全然違う音もあったが、かなり近い音もあった。

4, 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

年少

- ・普段いろいろな音を聞き生活しているが、改めて音とは何かを問いかけると、初めは難しい様子だった。活動を進めていくうちに、友だち同士やみんなの前で自由な発言が出てきた。
- ・子ども達自身で動き回る体験をした方が、子どもならではの発想が出てくると感じた。

- ・同じ音を聞いても、一人一人感じ方や表現の仕方が様々で面白いと思った。

年中

- ・いつもは自分から発言する事が少ない子ども、活動に興味を持ち友だちの前でたくさん発言する姿が見られよかった。
- ・同じ映像でも、それぞれが感じる音が違うという事を子どもたちと共に発見できたのが楽しかった。
- ・クラスを3つのグループに分けて探究したが、同じテーマでもグループごとに興味が異なり、活動がそれぞれ発展していった事がよかった。
- ・想像している音と、実際の音との違いや、それに対する違和感、環境を変えた際の変化に対して、考え発言したりすることで、音に対しての興味関心が広がっていくのを感じた。
- ・教師の問いかけが、子ども達の気づき、発言、探究の深まりに大きく影響することを感じ、難しい部分ではあったが勉強になった。

年長

- ・始めは、グループの友だちと役割を決めて進めたり、全員で話し合い意見を出し合うことが難しい様子だったが、回を重ねるごとに友だちの思いにも耳を傾け取り入れたり、スムーズに役割を決めて全員が主となり活動することができた。
- ・音のない写真や映像から、音を作り出す楽しさと難しさを感じた。その中で、子ども達の想像力は無限大だと感じた。
- ・子ども達の意見でどんどん活動が進み充実した活動になった。
- ・「動物園の鳴き声をどのように調べるか」と話し合いになった時に、「動物園の人に聞きに行く」など園内にとどまらず、子ども達の知識の中で様々な意見が出てきたこともあり、さらに可能性が広げられる活動だと思った。

